

03 わが社のかけがえのない戦力（障がい者）

皆さん、いかがお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、副島淳がお届けします。タイトルは「わが社のかけがえのない戦力」です。

福岡市の水産加工会社「福岡丸福水産」では、障がいのある人が多く働いています。この会社は長年、人手不足に悩み、一時は廃業を検討していました。そんな状況を変えたきっかけは、軽度障がい者の学びから仕事に就くまでを一貫して支援するB8Cグループの一員となつたことでした。

グループ代表の島野廣紀さんは、「以前、「障がいのある人と働くのは難しい」という先入観を持つていました。ある日、福祉施設を見学したとき、誰が支援員で誰に障がいがあるのか見分けがつかず、皆が生き生きと働いている姿に出会いました。

島野さんは、「障がいのある人にに対する自分のイメージが実際とは全く違うことに気づき、「環境を整えればきちんと働ける人がたくさんいる」と考えました。

福岡丸福水産では、障がいのある人が働きやすい環境にするために作業工程を見直し、それぞれの能力や適性に応じて

役割を分けました。体力のある人は荷物運び、根気強い人は同じ作業を繰り返すラベル貼り、集中力がある人は丁寧さが求められる箱詰めなど、一人一人が力を発揮しています。分からないことはタブレットですぐに確認できるようにするなどの工夫もしました。

30 仕事にやりがいを見出し、自分も先輩社員のようになりたいと夢を持つ人もいます。仕事を続ける人が増えたため、深刻な人手不足の解消につながりました。

35 ある現場の社員は、次のように話します。「障がいのある人と一緒に働くなかで、それぞれの力や個性に気づきました。サポートするときは一方的に助けるのではなく、一緒に考えていくことが大切だと実感しています。むしろ自分たちの方が学ばせてもらうことが多いです。」

40 島野さんは「個人個人と心から向き合い、その特性を最大限に見出すことで、わが社の大変な戦力になりました」と話します。より安心して仕事をしてもらうため、障がいのある人の正社員登用も始めました。いざれば、どこでも通用する働く力を身に付け、さらに成長できることを目指していきます。今後も会社の頼れる人材として、いつそうの活躍が期待されています。

45